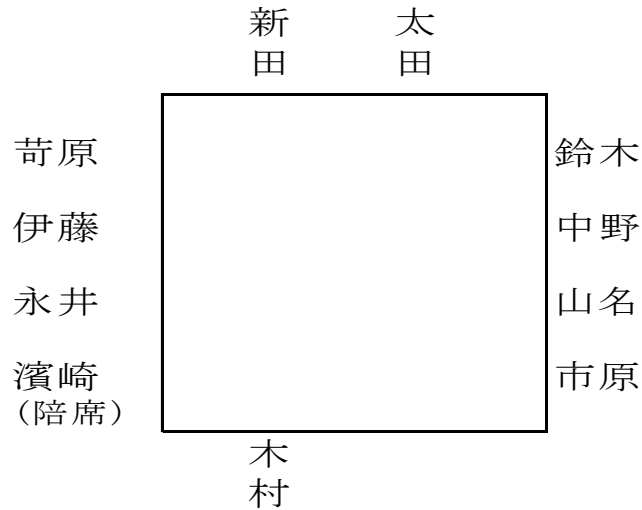


一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 平成25年度第1回社員総会 議事録

作成日：2013年5月23日

作成：事務局

【席 順】



日 時	2013年5月18日 (土) 17:00-18:40		
場 所	TKPガーデンシティ仙台 カンファレンスルームB		
出席者	新田 國夫	東京	新田クリニック
	鈴木 央	東京	鈴木内科医院
	苛原 実	千葉	いらはら診療所
	太田 秀樹	栃木	おやま城北クリニック
	中野 一司	鹿児島	ナカノ在宅医療クリニック
	伊藤 光保	愛知	内科伊藤医院
	木村 幸博	岩手	もりおか往診クリニック
	永井 康徳	愛媛	たんぼぼクリニック
	市原 利晃	秋田	秋田往診クリニック
	山名 保則	青森	八戸在宅クリニック
陪席	浜崎 圭三		たんぼぼクリニック
議題等	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項                      新田会長挨拶 世話人 近況・活動報告                      事務局 教育・研修局 IT・コミュニケーション局 調査・研究局                      在宅医療助成勇美記念財団助成 ブロック在宅医療推進フォーラム その他</p> <p>3 議事                      日本医師会から 教育テキストとDVD作成委託について                      世話人交代・拡大等について                      ホームページについて                      本会の運営方針 方法 会員拡大 ご要望                      次回開催日程 (案) 平成25年11月22日 (金) 東京*在宅医療推進フォーラム前日                      その他</p>		

## (1) 開会

## (2) 報告事項

## ○新田会長挨拶

新田：日本医師会から当会に在宅医療研修用のテキスト・DVDの作成を依頼された。現在、撮影を行っている。5月末に完成予定。在宅を行っていない医師が患者家族からの依頼により、躊躇しながらも在宅医療を初めていくというような内容。初心者向けのテキストを想定している。先日、日本医師会の常任理事の鈴木邦彦氏と共にオランダの家庭医制度や訪問看護等について、研修に行った。その中で、日本的なかかりつけ医を作っていくことの重要性を感じ、日本医師会が本格的にかかりつけ医の在宅医療を考えた。7月28日に開催の日本医師会・都道府県リーダー研修において、テキスト作成に参加したメンバーが講演を行う。9月からテキストとDVDを持って全国に働きかける予定。当会の方針と同じであり、今後も協力体制を取っていく。

## ○世話人近況報告

伊藤：本日のプライマリ・ケア連合学会にも参加してきた。地域包括システムを作っていく中で愛知県の懇談会等にも参加しているが、方向性が定まっていない。介護予防の為の地域包括ケアシステムの構築についての内容ばかりが繰り返されている状況。地域ケア会議の開催も困難であり懸念している。

永井：3月の日本在宅医学会には、3000名の方にお集まりいただいた。その後、執筆活動や講演等の予定が入っている。胃ろう劇と講演会をセットに5回ほど予定を立てたが、予算の問題等について連携拠点の先行きが不透明。

木村：岩手県の人口30万人ほどの町で行っている。医師5名で、新患が毎月20名程で看取りが15名程度。患者数増加している状況。

市原：3月から秋田の大学病院と赤十字病で在宅支援外来を始めた。病院の医師の窓口として働くことを目標としている。いつでもどこでも在宅を、を目指している。5月25日に県レベルのフォーラムの開催を予定している。そこで当会のPRをしてくる。

山名：昨年11月から新患の受け入れを停止している。医師1名で昨年10月は在宅患者130名、現在は110名ほどになっている。医師の募集をしているがなかなか見つからない状況である。市の医師会に委員会があり、情報共有を図っていく。

中野：4月から常勤医が2人増えた。常勤医が3名になり、薬剤師が必要になる問題が発生してしまった。開業以来営業活動は行ってこなかったが、現在は、倍くらい診られる余裕があり、積極的にアウトリーチをかけていこうかと考えている。

太田：栃木県と茨城県を診療圏としているが、地域差を感じている。栃木県では、県知事と医師会長が在宅医療を推進してきたが、茨城県では全く動いていなかった。今年度に入り、急速に在宅に乗り込んできた。本日のプライマリケア学会に、茨城県の行政関係者が参加されていた。国立長寿医療研究センターの研究で24年度に作成したDVDの必要があれば、事務局まで。25年度に日本医師会で作成するDVDは、ドラマ仕立てにした。

苛原：明日プライマリケア学会で、フランスの在宅についてシンポジウムを行う。フランスの在宅は日本と制度が大きく変わらない。また、5月の連休にアメリカに行ったが、在宅医療についてのシンポジウムの開催があり、多職種連携について討議されていた。高齢社会の問題は、他国でも共通点が多いと感じた。

浜崎（陪席）：今年4月からたんぼぼクリニックに在籍している。大学卒業後、地域医療を実践し瀬戸内海の島の診療所にいたが、専門性のない医師は不要ということで、現在に至っている。

鈴木：本日はありがとうございます。今回のプライマリケア学会でも在宅医療のカラーが濃く、ターニングポイントと感じる。プライマリケア学会においては、看取りのための研修を関係各所と調整中である。今後も皆様をお願いをすることが出てくると思う、その際は、よろしくお願ひします。

### ○事務局

太田：入会状況を見ると、会員数は少し増えている。会員募集のチラシを作成した。必要な方は、事務局までお申し出ください。

24年度決算について、脆弱な財政基盤ではあるが、今後も運営努力をしていきたい。

永井：関係学会でチラシを配付しているか。ブースをおいて、勧誘を行ってはどうか。

太田：地域で広めて欲しいことから現在は行っていないが、今後は活用していきたい。まずは、11月23日の在宅医療推進フォーラムで行ってみる。

永井：事務局と世話人がブースに滞在することで、会員拡大に繋がるのでは。世話人が交代でブースに滞在しては。

太田：在宅医療推進フォーラムにおいてデスクを設置、世話人が滞在することとする。⇒承認。

永井：当会でも大会を開催すれば、会員拡大のメリットがあるのではないか。

太田：前回世話人会においても提案があった。今年度は、日本医師会の下請けとして動き、医師会が開催するフォーラム等に積極的に参加・協力していくという方針であった。しかし、社会の盛り上がりを見ると、当会で大会を開催してもよいのか。

新田：初日に在宅講座を行い、2日目にフォーラムを企画すればすばらしい会になると思う。

永井：機能強化型・診療報酬・連携拠点を軸に企画してみても。

太田：規模は如何にしても、この会の開催がポイントとなる。2015年に向けて計画し、来年度行うこととするか。世話人が実行委員となるが、大会長は。

新田：続けることを考えると、東京からのスタートがよいのでは。

太田：MLで企画案を練っていくこととする。IT局、教育研修局での企画も考えて。次年度の事業として企画していくので良いか。

永井：機は熟しているのでは。

中野：今年度開催も可能ではないか。

太田：社会の盛り上がりを見ると、今年度事業でもよいのか。

今年度、26年に開催する方向とする。⇒承認。

日程と場所の確保を。

新田：第一候補 3月8・9日、第二候補 3月22・23日で、東京都で場所を確保しては。

永井：内容がしっかりとしていれば、1000名は参加すると思う。

太田：事前申し込みで参加者数もコントロールして行う方がよい。事務局は新たに組織しないと、現事務局では困難。会場の規模にもよるが、参加費も徴収する方針。9月には広報出来るように。

新田：実行委員会委員長を中野先生、副会長を永井先生にお願いしたい。大会長は新田、副会長を鈴木先生にお願いすることとする。⇒承認。

### ○教育・研修局

太田：和田先生が海外出張中であるため、代理で報告する。和田先生から資料が届いている。在宅医療推進フォーラム地方版について、北関東では昨年は開催できなかったが、今年度は埼玉県大宮市で開催予定。東北については未定。今年度の事業で時間があるので、皆様にご協力をお願いしたい。

### ○調査研究局

太田：川島先生からの資料が届いている。24年度の拠点事業の成果物として「つながりライン」というシステムを開発したということ。

### (3) 議事

太田：日本医師会から 教育テキストとDVD作成委託について、先にお話したように撮影が始まっている。老衰とガン末期患者の2例。

新田：在宅医療の過去・現在・未来として企画をした。

太田：世話人交代・拡大等について、岐阜の小笠原先生から、富山県 前川裕先生、福井県 紅谷裕之先生の推薦があった。皆様からのご異議がなければ世話人をお願いしたい。

	<p>永井：紅谷先生は、行列のできる在宅相談所をやっている若い先生。</p> <p>太田：富山県 前川裕先生、福井県 紅谷裕之先生に世話人を依頼する。⇒承認。</p> <p>埼玉県について、大宮医師会会長の湯澤先生に相談したところ、三谷先生を推挙された。湯澤先生か三谷先生に世話人を依頼する。⇒承認。</p> <p>ホームページについて、メンテナンス費が高いので業者をかえるべきかの問題について。</p> <p>中野：メンテナンス費が月3万円だが、コンテンツの変更・追加等にも別料金が発生する。3万円の中で変更も行ってくれればいいのだが。</p> <p>永井：たんぽぽクリニックの業者に確認してみる。ドメインの使用については、可能か。</p> <p>太田：技術的なことはよく分からないので、中野先生を通して業者に確認してみる。</p> <p>太田：会員拡大について、先ほど永井先生からご提案のあったように、在宅関係のイベントの際、パンフレット配布やブースを設置する。⇒承認。</p> <p>今年度、東京で第1回大会を開催する。大会長 新田、副大会長 鈴木、実行委員長 中野、実行副委員長 永井、機能強化型・診療報酬・連携拠点の3本を軸 ⇒承認。</p> <p>鈴木：プライマリアケア学会の地域包括ケア委員会をやっているが、3月にセミナーを行う予定。共同開催が可能か。60万円位の予算がつく。</p> <p>新田：プライマリアケア学会との共催について ⇒承認。</p> <p>太田：その他、在宅相談外来について市原先生に伺いたい。</p> <p>市原：大学病院と赤十字病院で在宅相談外来を実施。地域連携室に密に関わる在宅への窓口。県全体の患者さんが来るので病院の主治医と地域の在宅医とを繋げる役割。</p> <p>永井：昨年まで、愛媛大学で同様のことを行っていた。病棟カンファにも同席し、意義あるものであった。</p> <p>太田：病院の意識を変えるもので、素晴らしい活動である。</p> <p>太田：薬剤師について、当会として声を挙げる必要があれば意見を集約したい。</p> <p>中野：4月から常勤医が3名となり、薬剤師を常勤で雇用の必要があると、医師会から通知がきた。除外申請をしたが、1年の特例処置で、今後、保健所から調べに来るということ。</p> <p>山名：一年半ほど前に薬剤師を雇用した。服薬や残薬の把握もでき、メリットも大きい。院外の薬局では、訪問薬剤指導を行っていないという事情もある。自院で処方し、他の管理指導がなければ、報酬の算定も可能。</p> <p>太田：薬剤師を雇用してのメリットもあるが、在宅医療において連携が重要だという中、薬剤師の雇用が必要だということは、医薬分業等の理念から逸脱している。根拠法については、昭和8年で院外処方や、在宅医療については想定されていない。</p> <p>新田：厚労省への申し入れが必要と考える。⇒承認。</p> <p>太田：厚労省からの見解を示してもらおう。</p> <p>新田：法人名が長く馴染みづらい。「在支連」としてはどうか。⇒MLでも検討する。</p> <p>太田：次回開催日程(案)平成25年11月22日(金)東京*在宅医療推進フォーラム前日 19:00~21:00 ⇒承認。</p> <p>(4) 閉会</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿</li> <li>○入会状況・決算書類</li> <li>○教育・研修局より</li> <li>○調査・研究局より</li> </ul>
事務局	岩本 佳代子